

事務事業名		市民バス等運行事業			会計	一般会計				
課等名		リニア推進課			事業種別	政策	開始	10	終了	
基本計画上の位置づけ		政策	4	暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり						
		施策	44	交通機関と道路の充実						
目的	対象(誰・何を)	市民、来訪者			対象指標	指標名及び単位			24年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	地域公共交通の利用ができる				飯田市の人口(単位:人) (H23.10.1推計人口)			103947	
	向上させたい上位施策の成果指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(交通機関)(%)								
目標	種別	指標名及び単位			24年度計画	24年度実績	25年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)	
	成果指標	路線バスの全体利用者数(単位:人)			296431	313669	299366	308307		
	成果指標	乗合タクシーの全体利用者数(単位:人)			19905	23083	20693	20693		
定性目標										
事業概要	1 多様な主体(市民、交通事業者、行政等)で構成される「飯田市地域公共交通改善市民会議」(協議会)による市域の公共交通の改善検討及び広域連合、他町村との連携による南信州地域の公共交通のあり方検討 2 運行支援(運行欠損額補てん) (1)バス:循環線、大休線、三穂線、千代線、久堅線、遠山郷線、平岡線、駒場線、阿島線 (2)乗合タクシー:竜東線、三穂線、川路線、かざこし線、上市田線、遠山地域5路線、平岡線、八重河内線、遠山郷高校通学支援線 3 利用促進事業 (1)バス(JR飯田線含む)、乗合タクシー(地区別、路線別)時刻表の作成、配布 (2)乗合タクシー利用者アンケート、バス乗降調査 (3)まちづくり委員会、地区民協等との連携 等									
	事業内容					名称			活動指標	
	24年度事業内容	1 「地域公共交通改善市民会議」(協議会)による地域公共交通の改善検討及び、広域連合、他町村との連携による南信州地域の公共交通のあり方検討 2 運行支援(運行赤字補てん) (1)バス:循環線、大休線、三穂線、千代線、久堅線、遠山郷線、平岡線、駒場線、阿島線 (2)乗合タクシー:竜東線、三穂線、川路線、かざこし線(切石線丸山線統合)、遠山地域5路線、平岡線、八重河内線、遠山郷高校通学支援線、上市田線 (3)バス利用者数 (4)乗合タクシー利用者数 3 利用促進事業 (1)バス時刻表、乗合タクシー地区別時刻表・路線別時刻表の作成配布 (2)乗合タクシー利用者アンケート、バス乗降調査 (3)地区民協、高齢者集まり等への出張PR (4)クーポン券発行(高齢者、学生、一般) (5)バス運行経路変更(循環線、遠山郷線、千代線)				1 (1)協議会開催数 1 (2)部会等開催数 2 (1)バス路線数 2 (2)乗合タクシー路線数 2 (3)バス利用者数 [前年対比] [104.8%] 2 (4)乗合タクシー利用者数 [前年対比] [113.3%] 3 (1)時刻表作成数 3 (2)アンケート回収数 3 (3)出張回数			1 (1)2回 1 (2)7回 2 (1)9路線 2 (2)13路線 2 (3)313,669人 [104.8%] 2 (4)23,083人 [113.3%] 3 (1)85,150部 3 (2)100部 3 (3)24回	
事業コスト		23年度決算額	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	特定財源内訳、補足				
事業費計(千円)①		78,172	88,587	72,688	86,279	[23特定財源] 過疎対策事業費(ソフト事業分) 26,300千円 地域振興基金利子 3,490千円				
国庫支出金						[24特定財源] 過疎対策事業費(ソフト事業分) 16,100千円 地域振興基金利子 3,806千円				
県支出金						[25特定財源] 過疎対策事業費(ソフト事業分) 23,100千円 地域振興基金利子 4,390千円				
起債		26,300	23,700	16,100	23,100					
その他		3,490	3,490	3,806	4,390					
一般財源		48,382	61,397	52,782	58,789					
人件費計(千円)②		0		14,304						
正規職員所要時間				4,000						
臨時職員所要時間										
総事業費①+②		78,172	88,587	86,992	86,279					
事業内容・目標達成状況の振り返り	平成24年4月からバス回数券を見直し(高齢者設定を追加)、乗合タクシーにも同率で回数券を導入した。また、乗合タクシー時刻表を高齢者が見やすいように文字を大きくした地区別時刻表も作成した。バス、乗合タクシーともに利用者が増加した(前年対比:105.3%)。バス駒場線は、学生定期券上限制等により、高校生の利用が順調に推移している。									
改革改善の考え方	①問題点	・H22年度以降、利用者数は徐々に増加しているが、まだまだ利用者層は広がっていない。より多くの市民に、もっと身近な存在として公共交通機関を利用して頂く必要がある。								
	②改革提案	・平成25年4月から、バス運賃を、わかりやすく手頃な運賃(10円単位→100円単位、地区エリア制)に改定し、あわせて定期券も見直した。また長姫と工業高校の統合を機に、高校生が通学しやすいようにダイヤ等を改善した。								